

# 構造と動作

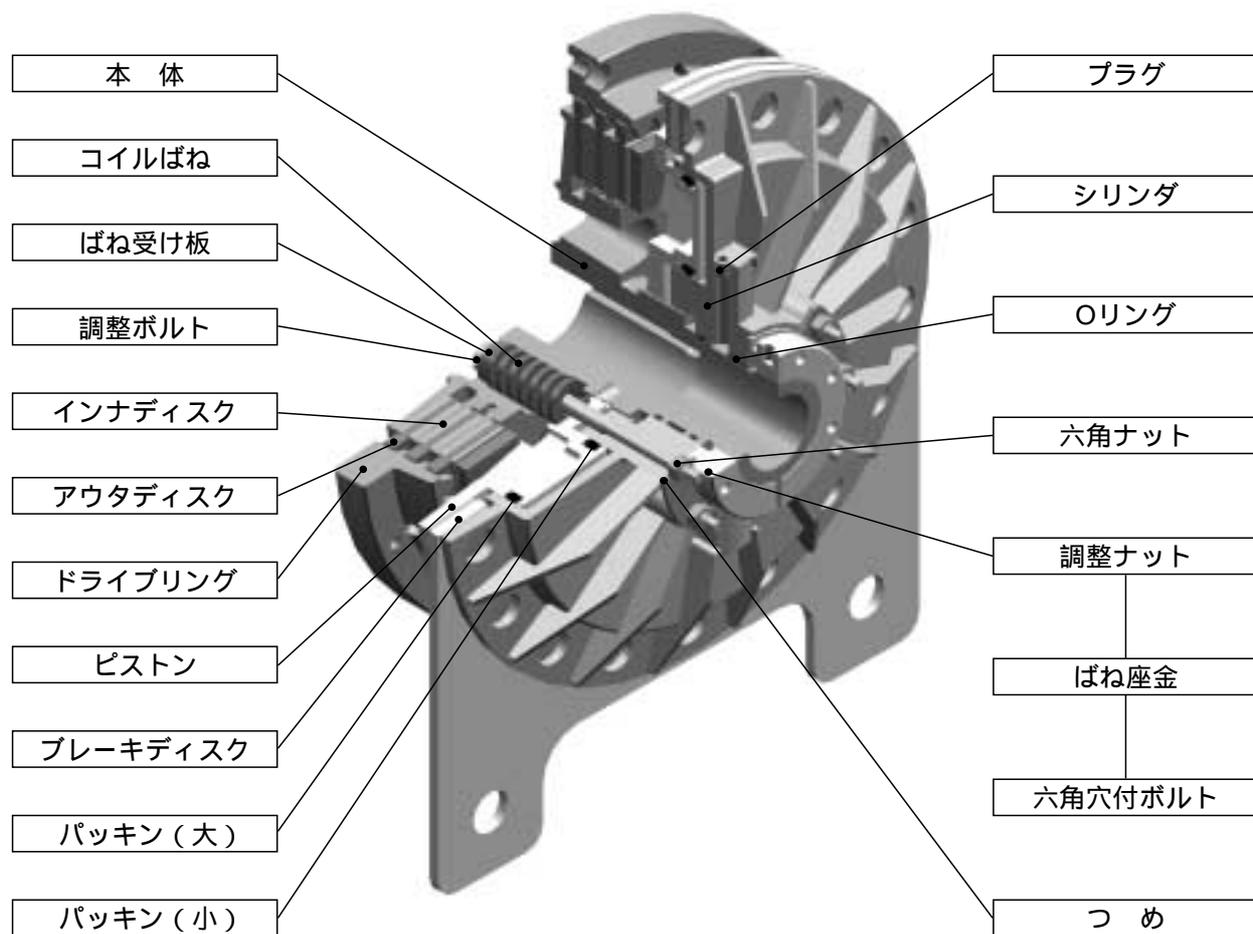
ACSB形乾式多板空気圧クラッチ・ブレーキは圧縮空気を送ると作動(連結)するクラッチに、これと連動して解放する負作動(スプリングクローズ形)ブレーキを一体に組合わせた構造で、20個の部品で構成されています。

インナディスクは本体の歯形スプラインに、これと交互に組合うアウトディスクは入力側ドライブリングの歯形スプラインに、いずれも軸方向に摺動できるようにはめ込まれています。また本体の小径歯形スプラインには、アウトディスク及びブレーキディスクに対応する2つの摩擦面をもつピストンと、コイルばねにより圧着されるブレーキディスクを受けるシリンダがはめ込まれ、リリース調整

用の調整ナットで軸方向にセットされています。ブレーキディスクの圧着力は、調整ボルトによりコイルばねの取付長さを調整し、調整ボルトは六角ナットでロックされています。

本体の空気穴よりシリンダに圧縮空気を送ると、ピストンはコイルばねの圧力に抗して押し出され、ブレーキディスクを解放すると同時にクラッチディスク(アウトディスク、インナディスク)を圧着して、ドライブリング(駆動側)からのトルクを本体(被動側)に伝達します。

空気圧を解放するとコイルばねによりピストンは押し戻され、クラッチの連結は解かれブレーキがかかります。



ACSB形 多板空気圧クラッチ・ブレーキ

## 形式表示

# ACSB 50

形式記号

ACSB : 乾式多板空気圧クラッチ・ブレーキ〔標準形〕

トルクサイズ

- 50 : 500 [N・m]
- 100 : 1000 [N・m]
- 170 : 1700 [N・m]
- 200 : 2000 [N・m]
- 280 : 2800 [N・m]
- 400 : 4000 [N・m]
- 580 : 5800 [N・m]
- 800 : 8000 [N・m]